

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：13501  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2021～2023  
 課題番号：21K02460  
 研究課題名（和文）国語教科書の伝記教材が推奨する【生き方・考え方モデル】の特質と年代的変遷の解明

研究課題名（英文）Elucidation of the characteristics and chronological transition of the "lifestyle and way of thinking model" recommended by biographical materials in Japanese language textbooks

研究代表者  
 茅野 政徳（KAYANO, MASANORI）  
 山梨大学・大学院総合研究部・准教授

研究者番号：00830142  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主たる成果として2本の論文が挙げられる。まず、日本国語教育学会への査読論文「伝記教材における被伝者やなせたかしの可能性 小学校国語科と「特別の教科 道徳」の教科書分析をもとに」である。次に、「国語教科書の中のオリンピック戦後小学校国語検定教科書の伝記教材を中心に」（横浜国大国語研究）である。  
 上記論文を含め、本研究全体を通して、伝記教材がその当時の社会情勢を鑑み、公共性を維持し、秩序への適応を促すために、規範的な価値観や道徳性（【生き方・考え方モデル】）を児童に伝える役割を果たしてきたことが実証できた。また、小・中学校国語教科書における伝記教材一覧の作成も成果の一つといえる。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

伝記教材は公共性を維持し秩序への適応を促すために、規範的な価値観や道徳性（本研究では、【生き方・考え方モデル】と称する）を児童に伝える一役を担ってきた。しかし、国語教科書教材史の分野において伝記教材は研究が停滞していた。本研究はその点に着目し、伝記教材が児童・生徒に提供してきた【生き方・考え方モデル】を明らかにし、社会変化の中での伝記教材の普遍性と流動性を検討したことに学術的意義がある。  
 また、小・中学校の戦後国語教科書の伝記教材の調査を経て一覧表を作成した。これにより今後伝記教材の研究に従事する者が、年代ごとの被伝者の傾向や重視される内容等を容易に知り得ることは社会的意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：Two papers can be cited as the main results of this research. The first is a peer-reviewed paper submitted to the Japan Society for the Study of Japanese Language Education, entitled "The Potential of Yanase Takashi as the Recipient of Biography in Biographical Materials: Based on an Analysis of Elementary School Japanese Language and Special Subject Morality Textbooks." The second is "Olympics in Japanese Language Textbooks: Focusing on Biographical Materials in Postwar Elementary School Japanese Language Examination Textbooks" (Yokohama National University). Throughout this research, it was possible to demonstrate that biographical materials have played a role in conveying normative values and morality (a model for how to live and think) to children, in consideration of the social situation at the time, in order to maintain publicness and encourage adaptation to order.  
 Another result is the completion of a list of biographical materials in Japanese language textbooks.

研究分野：国語教科書教材史研究

キーワード：国語教科書 伝記教材 道徳教材 規範的価値観 生き方・考え方モデル 東京オリンピック スポーツ選手 やなせたかし

## 1. 研究開始当初の背景

情報メディアの発達、社会構造の変化により、J・F・リオタール(1986)のいう「大きな物語」が瓦解し、「子ども」という概念の消滅が叫ばれて久しい。高橋勝(2002)は、そのような状況を「大人」のモデルそのものが多様に拡散し、「子どもが公共性を欠落させたバラバラな「個我」として、この社会を浮遊しはじめた」と称した。公共性を維持し、秩序への適応を促すために、文化審議会及び中央教育審議会の答申と足並みを揃え、規範的な価値観や道徳性を子どもに伝える一役を担ってきたのが「伝記」であり、急激な社会変化の中で果たす役割を再検討する必要性が高いと考えている。また、生き方や考え方の多様化が進む中、国語科において伝記をどのように扱うべきか。その考察に向け、本研究の最も重要な「問い」を「国語教科書の伝記教材が推奨する【生き方・考え方モデル】は何か」と設定することとした。

本研究における【生き方・考え方モデル】とは、被伝者の人生の中から選ばれたエピソードによって構成される伝記教材において、エピソードに対する評価や被伝者に対する書き手の見方が表された語句(【見方・評価語句】)を通して読者に伝えられる、「推奨される人生の歩み方、思いや考えのもち方、道徳的規範・価値観」を指す。なお、小学校学習指導要領国語には、平成20年版に約30年ぶりに「伝記」の文言が復活した。小学校学習指導要領解説編には、伝記を読み、「自分の生き方について考える」、「人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点」を見つけると述べられている。この趣旨は、平成29年告示の学習指導要領国語にも引き継がれていることをふまえ、【生き方・考え方モデル】と名づけることにした。

そもそも国語教材史研究において伝記教材は、取り残された文種である。物語や小説の研究は衰えを見せず、近年では実用的な言語能力、論理的思考力の研究が脚光を浴びている。国語科教育関連雑誌で伝記の特集が組まれたことは管見の限り、「教育科学国語教育」70号(1964)のみであり、現在も教材史・指導法の両面で研究が遅れている文種ということができる。

では、なぜ伝記教材は研究の表舞台に立てないのか。伝記は、内容、形式の両面で記録文や物語文など様々な文種の要素が混在する複合型テキストであり、掲載数が少なく掲載学年に偏りがあることが大きな要因と推察される。だからこそ、国語教科書の伝記教材を内容、展開、使用語句など多面的に分析し、道徳の伝記教材や一般図書伝記との比較・検討を経て、推奨する【生き方・考え方モデル】の特質と、年代の変遷を総体的に明らかにすることに学術的意義があると考え、本研究に臨むこととした。

## 2. 研究の目的

本研究は、小・中・高の国語教科書に掲載された全ての伝記教材を分析対象とし、内容分析(エピソードの選び方や展開のさせ方)によるパターン化の実証を第一の目的とする。

伝記教材史に関する先行研究として、幾田伸司(2012)や高野光男(1990)などが挙げられる。各々小、中学校国語教科書の伝記教材において採録数の多い被伝者に関し、複数の伝記教材の内容比較を行っている。執筆者も宮沢賢治を研究対象とし、掲載年代を4期に区切り、内容を比較したうえで期ごとに強調される価値意識や行動規範などを検証したことがある。その研究成果を「戦後小学校国語検定教科書における宮沢賢治の伝記教材の変遷」という論考にまとめた。この論考は、査読論文として、全国大学国語教育学会「国語科教育」に掲載された。また、「戦後教科書における伝記教材の研究 - 戦後小学校検定教科書における宮沢賢治の伝記教材を中心に - 」(横浜国立大学国語 日本語教育学会)と題し、学会にて口頭発表を行っている。しかし、上記の研究はいずれも被伝者個々の伝記教材の内容分析に留まり、また戦後の検定教科書に対象が限定されており、戦前の『尋常小学読本』から現在までの全校種の伝記教材を網羅し、エピソードの選び方や展開のさせ方のパターン化や年代の変遷を総体的に明らかにする研究は行われていない。なお、全国大学国語教育学会にて口頭発表した「戦後小学校国語検定教科書における伝記教材の変遷」は、小学校国語検定教科書の伝記教材を網羅するかたちで研究を進めたため、第一の目的を果たす際に礎となる。

第二の目的として、書き手の執筆意図の顕在化を目指す。先に述べたが、伝記は記録性と文学性を有する特殊な文種であり、書き手はその両面で、執筆意図に応じて被伝者のイメージを左右する権限を握っているにもかかわらず、伝記教材の研究において、書き手に焦点が当たるとは稀だった。例えば、人類愛の象徴、努力の結晶など、書き手が被伝者を価値づけ、イメージ形成を促進する【見方・評価語句】の面からも伝記教材が推奨する【生き方・考え方モデル】を解明することに、大きな意義があると考えている。

第三の目的は、道徳の伝記教材と一般図書伝記との比較・検討である。執筆者は過去に一般図書伝記の編集に携わった経験がある。一般図書は紙幅の制約が緩いため、多くのエピソードを盛

り込み、展開の自由度も高く設定できる。一方、道徳は新たに「特別の教科」として小・中の教育課程に組み込まれ、主要教材として「先人の伝記」が位置づけられた。学習指導要領道徳には、A～Dの4つの枠組みのもと、22の内容項目が置かれ、教科書では教材と内容項目が強く結びついている。よって、同一の被伝者でも扱う内容項目が違えば、エピソードも【見方・評価語句】も異なることが多々ある。国語科という単一の教科の枠を越え、他領域、媒体である道徳教材及び一般図書伝記との横断的・比較調査を取り入れた教材史研究も過去に例がなく、国語教科書の伝記教材が推奨する【生き方・考え方モデル】を鮮明に浮き上がらせることができると考えた。

### 3. 研究の方法

#### (1) 内容分析（エピソードの選び方や展開のさせ方）によるパターン化の実証

「小学校国語教科書における伝記教材の変遷～戦後検定教科書を中心に～」を執筆する際に収集した伝記教材に加え、国立教育政策研究所教育図書館などでの複写や新版教科書の購入により全校種の伝記教材一覧を作成する。内容分析に関しては、学習指導要領国語「教材選択の観点」(10観点)、「戦後小学校国語検定教科書における宮沢賢治の伝記教材の変遷」(国語科教育)及び「実践研究者かつ研究実践者であれ～点を太い線へ、線から確固たる点を～」(教育研究)において分析に使用した15・26観点、道徳の内容項目(4項目22観点)との整合を図り、6項目36観点を新しく設定して一編ずつ行い、年代、被伝者による相違点や傾向を見出す。逆に年代や被伝者を問わず、描かれ続ける内容や展開を統計データとして示し、伝記教材の内容及び展開に一定のパターン化が見られることを証明する。

#### (2) 同一被伝者の国語、道徳、一般図書の伝記に描かれる内容の比較・検討

小学校道徳教科書8社48冊を調査し、伝記教材数301編、被伝者総数233名を確定したうえで、(1)で作成した教材一覧と照合し、国語⇔道徳、国語⇔一般図書、道徳⇔国語⇔一般図書に共通する被伝者を特定し、描かれる内容を比較・検討する。道徳は、1つの内容項目を内包した教材を1単位授業で扱うことが多く、教材は短編が中心であり、エピソードを精選せざるを得ない。多くのエピソードが載る一般図書伝記を含め、内容の比較・検討を行い、共通点・相違点を熟考することにより、国語教科書が推奨する【生き方・考え方モデル】の特質の明確化を図る。

#### (3) 伝記教材における被伝者を評する【見方・評価語句】の集積と分類

内容や展開を決定する権限をもつ書き手に焦点を当てる。教材の執筆意図に応じて、被伝者を価値づけ、読者のイメージ形成に影響を与える【見方・評価語句】を集積し大別することで、【生き方・考え方モデル】のさらなる解明につなげる。

最終的に、(1)～(3)を総括し、国語教科書の伝記教材を通して暗黙裡に読者である児童・生徒に伝えられてきた道徳的規範や価値観を浮き彫りにし、その要因(社会的背景や要請との関連性)を指摘する。それは、生き方や考え方の多様化の波が押し寄せる中、国語科教育における伝記教材に対する固定的な見方や指導法に抜本的な変化を求め、かつ道徳教育、読書教育に新たな知見を提供することにつながるはずである。

### 4. 研究成果

本項では、研究成果を大きく4点にまとめる。

第一に、収集した国語科と道徳における伝記教材をもとに、「国語教科書の中のオリンピック - 戦後小学校国語検定教科書の伝記教材を中心に - 」と題した論考をまとめたことである。本論考では、現在小学校で使用されている「特別の教科 道徳」教科書に掲載されたスポーツに関連した人物資料(301編中59編)と国語教科書に採録されたスポーツ選手の伝記教材(31編、そのうち19編がオリンピック)を調査・分析することにより、被伝者の採録意図を明らかにし、国語教科書が東京五輪1964開催に向けた肯定的な国民感情の創出に果たした役割を検証することを目的とした。その結果、スポーツ選手の伝記教材の掲載は昭和20～30年代半ばに偏り、スポーツマン・シップやオリンピック精神といったキーワードと関連づけられ、努力、友情、規則の尊重、公正・公平、国際親善・友好等の教育的価値を児童に届ける重要な役目を負っていたことを解明した。

第二に、「伝記教材における被伝者やなせたかしの可能性 - 国語と「特別の教科 道徳」の比較をもとに - 」と題した論文をまとめ、査読論文として日本国語教育学会誌に掲載された。この研究内容は、「3. 研究の方法」にある、「国語 道徳、国語 一般図書、道徳 国語 一般図書に共通する被伝者を特定し、描かれる内容を比較・検討することにより、国語教科書が推奨する【生き方・考え方モデル】の特質の明確化を図る。」ことに合致する。本論文では、現在使用されている「特別の教科道徳」の小・中学校の教科書から実在の人物に関する教材をピックアップし、被伝者の傾向を探った。その結果、やなせたかしの被伝者としての価値の高さが浮き彫りとなった。この点をふまえ、小学校国語教科書におけるやなせたかしの伝記教材2編を分析した。

さらに、一般書として刊行されているやなせたかしの伝記や自伝などを網羅的に扱い、どのような内容が教材に配されているのか。逆に取り上げられていないエピソードは何か、を解明した。その結果、やなせたかしを被伝者とする伝記教材が推奨する、現代の規範的価値観や生き方、道徳性を顕在化することができた。

第三に、「3. 研究の方法(3) 伝記教材における被伝者を評する【見方・評価語句】の集積と分類」という観点をふまえ、新たな伝記教材の開発に取り組んだ。東京学芸大学附属竹早小学校 曽根朋之教諭との共同研究では、「比較・創作・深化～伝記スティーブ・ジョブズ～」という単元を開発し、曽根教諭の勤務校の研究発表会にて授業公開を行い、執筆者は指導・助言者としても携わった。この単元では、スティーブ・ジョブズに関する複数の伝記教材を開発(作成)し、その教材を児童が比較・分析することにより、「目的に応じて、いくつかの伝記や資料などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方(被伝者の描き方)について考えたりすることができる。(読むことウ)」、「文章を読んで理解したことに基づいて、被伝者の描き方についてまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(読むことカ)」といった言葉に対する見方・考え方を育成することを目標とした。児童は、語句の選択・価値づけ・評価語句・強調表現など内容だけでなく、書かれ方(形式)にも着目し、書き手の執筆意図、語句の違いが生み出す被伝者に対する印象への影響などを捉えていった。例えば、強調表現(すぐずっと大きくもっと簡単に)、動詞(挑戦 結び付け 責任をもって 着手 常識を覆し)、評価語句(救世主 革命的 夢 思い 無給)などの具体的な文言が学習場面では取り上げられた。この実践により、伝記教材による言葉の学びの新たな可能性が見出されたといえよう。

第四に、「3. 研究の方法(1) 内容分析(エピソードの選び方や展開のさせ方)によるパターン化の実証」について述べる。世界的な感染症流行の影響を受け、研究初期は調査が思うように進まなかった。そのため、校種や年代を網羅した伝記教材の収集やパターン化の実証には至らなかった。しかし、伝記の描かれ方や【見方・評価語句】への着眼など、伝記教材を分析する手法を確立したことで、それを援用し、現在使用されている小学校国語教科書の物語文教材を対象とした研究論文「小学校国語教科書の物語文における人物・時・場の「設定」と効果 - 読みを深めるために - 」の執筆につながった。また、その分析手法は、『小学校国語 教材研究ハンドブック』『小学校国語 読みのスイッチでつなぐ 教材研究と授業づくり 物語文編』などの書籍でも取り上げている。

最後に、今後も校種を網羅し、さらに年代を広げ伝記教材の一覧表の作成・修正を図りたい。また、その一覧をもとに、やなせたかしやオリンピックのように、特定の秘伝者(例えば、牧野富太郎や津田梅子など)に焦点を当て、本研究のさらなる発展に努めたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 茅野政徳	4. 巻 616
2. 論文標題 伝記教材における被伝者やなせたかしの可能性 小学校国語科と「特別の教科 道徳」の教科書分析をもとに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本国語教育学会「国語教育研究」	6. 最初と最後の頁 46-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 茅野政徳 白川治	4. 巻 34
2. 論文標題 同一作品の小説と映画を用いた小学校国語科の単元開発	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教材学会 教材学研究	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 茅野政徳	4. 巻 40
2. 論文標題 国語教科書の中のオリンピック戦後小学校国語検定教科書の伝記教材を中心に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 横浜国大国語研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水 一寛、茅野 政徳	4. 巻 27
2. 論文標題 小学校国語教科書の物語文における人物・時・場の「設定」と効果：読みを深めるために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育実践学研究：山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 = Journal of Applied Educational Research	6. 最初と最後の頁 445 464
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34429/00005123	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 茅野政徳, 櫛谷孝徳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 208
3. 書名 小学校国語 読みのスイッチでつなく 教材研究と授業づくり 物語文編	

1. 著者名 藤森裕治, 茅野政徳他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 236
3. 書名 これからの国語科教育はどうあるべきか	

1. 著者名 茅野政徳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 230
3. 書名 小学校国語 教材研究ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------